

第2回 栃木県「文化と知」の創造拠点整備構想策定検討委員会

日時：令和5(2023)年10月31日(火) 14:00~16:00
場所：栃木県総合文化センター第1会議室

資料 1. 報告事項について	3 ページ
資料 2. 「文化と知」の創造拠点の一体的な整備について	6 ページ
資料 3. 「文化と知」の創造拠点の整備地について	10 ページ
資料 4. 「文化と知」の創造拠点の基本理念の検討について	16 ページ
参考資料 1. 「文化と知」の創造拠点の整備地について	25 ページ
参考資料 2. 県庁前の県有地に係るサウンディング型市場調査について	26 ページ
参考資料 3. 一体的整備を行っている先行事例におけるコンセプトについて	27 ページ

報告事項について

検討委員会委員による現地視察の実施について

項目	内容
概要	「文化と知」の創造拠点整備構想策定の検討に当たり、関連施設及び整備候補地の現状を把握するため、委員の現地視察を行った。
実施日	令和5(2023)年8月1日(火)、10月19日(木)、25日(水)、26日(木)、31日(火)
視察先	県立美術館、図書館、文書館及び県体育館跡地
参加者数	検討委員会委員のうち22名

県民ワークショップの実施について

項目	一般向け	高校生・大学生向け
目的	<ul style="list-style-type: none"> 現在の利用者・将来の利用者としての県民の声を聴取し、使い勝手のよい県民のための施設を目指す 各館の現在の活動を知ってもらうとともに、整備構想の検討が行われていることを周知することで、機運醸成を図る 	
実施日	令和5(2023)年8月26日(土)	
実施時間	10時~12時	14時~16時
会場	県立美術館集会室	
参加者数	11名	12名
参加対象者	県内に在住又は在勤している方	県内に在住又は通学している高校生・大学生
概要	「文化と知」の創造拠点について、どういった機能があれば良いか、何をしてみたいかなど、グループワークを通して考え、意見を述べていただいた。	
聞き取り項目	<u>現在の施設の課題等</u> <ul style="list-style-type: none"> 現在の施設の良いところや好きなところ 現在の施設の良くないところや不足しているところ 	<u>「文化と知」の創造拠点に期待すること</u> <ul style="list-style-type: none"> 「文化と知」の創造拠点にあると良い機能等 「文化と知」の創造拠点で活動してみたいこと

「文化と知」の創造拠点の一体的な整備について

「文化と知」の創造拠点の一体的な整備について

「文化と知」の創造拠点の一体的な整備により想定される相乗効果

施設・設備面で想定される効果

※第1回検討委員会資料再掲

想定される効果		参考事例
機能の共有化	<ul style="list-style-type: none"> ● 類似目的の機能(受付・案内窓口、講演スペース等)や設備の共有 	太田市美術館・図書館 ● 建物の基本的な考え方として「内外や裏表のない建物」、「街を歩くような経験」、「環境に開かれた場所」、「みんなで北口をつくる」を実現
新たな機能の創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 3施設共同展示などによる新たな展示表現の創出 ● スペース効率の向上による新たな空間の創出 ● まとまりのある屋外空間の確保による新たな利用形態の創出 	練馬区立美術館(基本設計提案書) ● 可動壁による空間設定により、美術館と図書館が様々なレベルで融合

サービス面で想定される効果

※第1回検討委員会資料再掲

想定される効果		参考事例
サービスの共通化	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務の共有化や連携、機能の相互補完等による運営の効率化 ● デジタル化の一体的な推進 ● 一体的なデジタルアーカイブによる横断検索等、アーカイブ機能の強化 	三重県総合博物館 ● かつての歴史的公文書を「特定歴史公文書等」として保存し、総合博物館内の資料閲覧室で公開・利用可能
新たなサービスの創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 3施設の相互連携による新たなサービスの創出 ● ワンストップレファレンスなど、分野横断的な情報の提供 ● 展示・イベント等の連携実施による施設の魅力の向上 	須賀川市民交流センター-tette ● 図書館エリア以外にも図書が配架されており、図書館の閉館時間や休館日にも来館者が利用可能

「文化と知」の創造拠点の一体的な整備について

「文化と知」の創造拠点の一体的な整備により想定される相乗効果

※第1回検討委員会資料再掲

利用者の活動促進に想定される効果

想定される効果		参考事例
相互利用の促進	<ul style="list-style-type: none">● 来館者の相互利用の促進● 各館の活動に協力するボランティア等の相互交流の促進	須賀川市民交流センターtette <ul style="list-style-type: none">● 市民の経験・社会参加への意欲を活かし運営に参加してもらう個人登録制ボランティア(20歳以上向けのクラブ、10代向けのティーンズクラブ)を組織
新たな活動の創出	<ul style="list-style-type: none">● 資料の相互利用による新たな「文化と知」の創造● 利用者等の交流促進による新たなコミュニティや活動の創出● 一体的なデジタル化・アーカイブ化によるWeb利用者の実来館への誘導や、Web上での新たな活動の創出	八王子駅南口集いの拠点(概要説明書) <ul style="list-style-type: none">● 多様な活動をけん引し、市民の「新しいチャレンジ」を応援する場所を整備

第1回検討委員会における一体的な整備に係る主な意見

意見

- MLA(ミュージアム・ライブラリー・アーカイブズ)連携はデジタルが主流だったが、物理的に一体的整備を検討することで素晴らしい構想になることを期待している
- 美術作品について図書館で調べる等、深い学びにつなげられる
- 3施設が連携した企画展など、新たな魅力が生まれることが期待できる
- 各施設の機能・役割を最大限生かしつつ、交流の場などを共有することで、相乗効果が期待できる
- 各施設の来館者が別の館にも訪れるなど、相互利用が期待できる

県民ワークショップにおける一体的な整備に係る主な意見

意見

- 一体的な整備により、展示品の情報等が調べられる場所となってほしい
 - 美術館の展示作品と関わりのある本を読みたい
 - 美術と歴史(古文書等)を関連付けた展示や体験に期待している
- 委員及びワークショップ参加の県民ともに一体的な整備については異論は見られなかった
- 一体的な整備により生まれる相乗効果等に関する肯定的な意見が出された
- ⇒「文化と知」の創造拠点として、美術館・図書館・文書館の3施設を一体的に整備することとしたい

「文化と知」の創造拠点の整備地について

第1回検討委員会における県体育館跡地に係る主な意見

意見

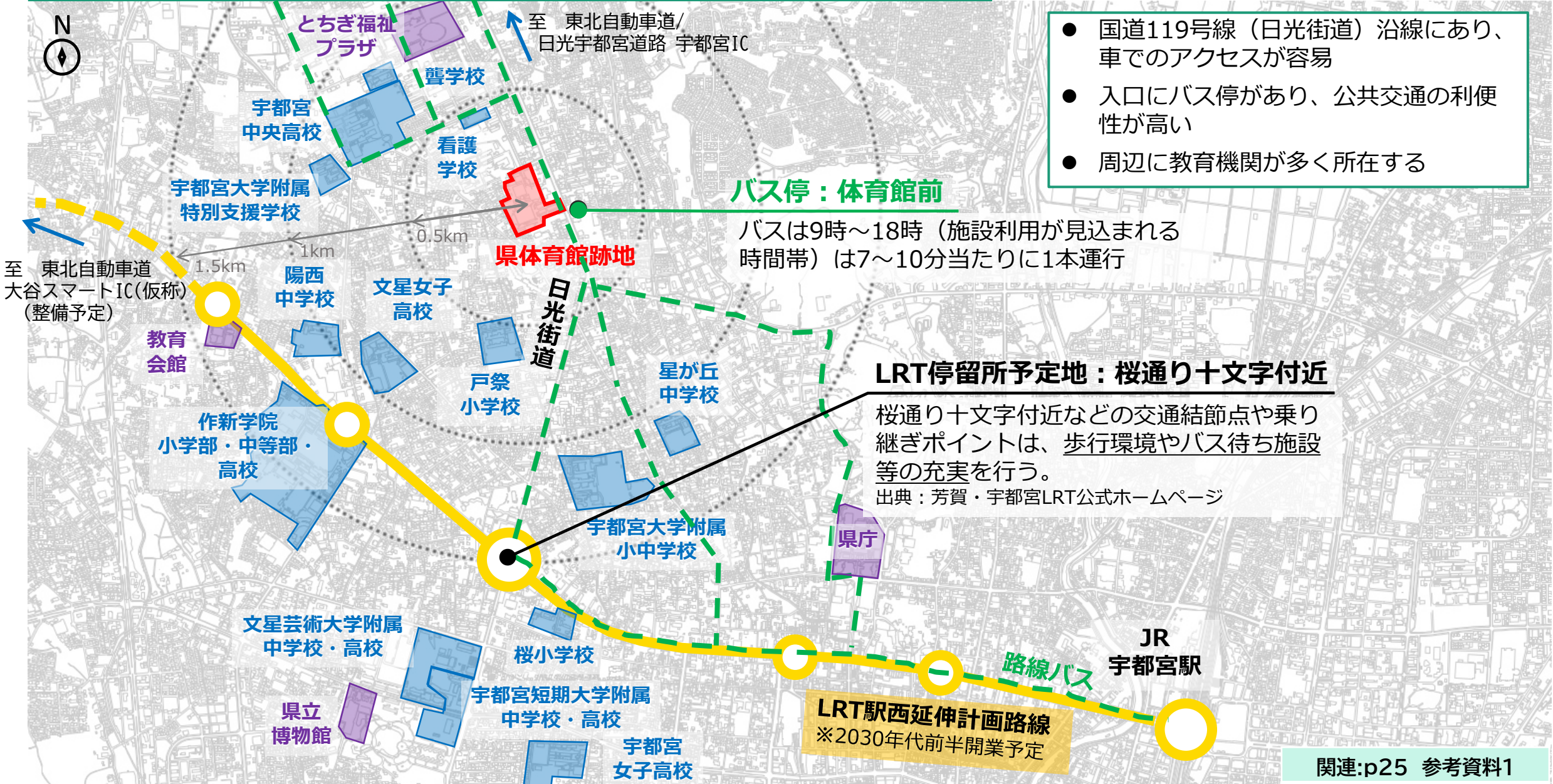
- 宇都宮市中心部にも近く、広大な土地であり、かつ、公共交通もしっかりしており、良い場所である
- 土地が広いため、低層で規模の大きい施設が整備でき、望ましい
- 日光街道沿いでインターチェンジからも近く、県内各地からアクセスしやすい場所で非常に良い
- 自家用車であればどこからもアクセスしやすいが、路線バスの利便性を更に向上させられると良い

県民ワークショップにおける県体育館跡地に係る主な意見

意見

- 周りに学校が多いので、利用しやすくなる学生は多いと思う
- 宇都宮市の都市計画との整合性を図るため、市と話し合うべき
- 観光客の利便性を考えると、LRTの沿線に整備するのが良いのではないか
- 他の場所も検討してはどうか
(県庁前の芝生広場(栃木会館跡地)、栃木県教育会館 等)

県体育館跡地の周辺環境について



「文化と知」の創造拠点の整備地について

県体育館跡地に係る宇都宮市のまちづくりとの整合性について

ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン		
区分	都市拠点圏域	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市拠点と強い関連性を持ちながら互いに連担する地域 ● 都市拠点と役割分担を図りながら日常生活に必要な各種の機能を備える <都市拠点> 都市機能を集約・集積(行政機関、商業機能、教育施設、文化・芸術施設等)
宇都宮市都市計画マスタープラン		
区分	中高密度市街地	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域特性に応じ、中低層の集合住宅や商業・業務・サービスなど、各機能の調和のとれた複合的な土地利用により、利便性の高い市街地形成を目指す
宇都宮市立地適正化計画		
区分	居住誘導区域	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市の生活を支える機能を誘導・集積した拠点や交通結節点周辺、拠点等とのアクセス性が高い幹線交通軸の沿線などに居住を誘導
宇都宮市都心部まちづくりビジョン		
エリア	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 桜通り十文字周辺と連担するエリア <桜通り十文字周辺> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育・文化、公共公益機能が集積する居住地区 ・ 将来像:多くの若者や学生などが行き交う新たな文化が生まれるエリア ・ LRT⇄郊外からのバス、周辺施設への移動や自転車の結節拠点の役割を担う

⇒ 高次都市機能誘導区域[※]外の居住誘導区域に位置するものの、都市機能の集約・集積が図られる「都市拠点」と強い関連性を持ちながら互いに連担する「都市拠点圏域」にあるとともに、公共交通ネットワークの維持・充実が図られる幹線交通軸の沿線に位置していることから、**宇都宮市のまちづくりとは「おおむね整合が図られている。」**と判断される。

※ 高次都市機能誘導区域
 都市拠点エリアの核として、都市の魅力やまちなかの賑わい創出につながる「高次都市機能(施設)」や、地域住民に日常的な生活サービスを提供する「都市機能(施設)」を誘導・集積する区域

「文化と知」の創造拠点の整備地について

「文化と知」の創造拠点の規模及び敷地規模の試算

他都道府県の近年の県立施設整備動向

施設	県【竣工年】	延床面積	考察
美術館	栃木県(既存)【1972年】	7,907m ²	延床面積は13,000m ² ~17,000m ² 程度 (平均で15,000m ² 程度)
	大分県【2015年】	16,817m ²	
	富山県【2017年】	14,990m ²	
	長野県【2021年】	13,256m ²	
図書館	栃木県(既存)【1971年】	6,458m ²	延床面積は13,000m ² ~23,000m ² 程度 (平均で18,000m ² 程度)
	高知県【2018年】	17,780m ²	
	長崎県【2019年】	13,325m ²	
	石川県【2022年】	22,721m ²	
文書館	栃木県(既存)【1986年】	1,952m ²	延床面積は3,000m ² 程度
	北海道【2019年】	3,062m ²	
	滋賀県【2020年】	3,294m ²	
	高知県【2020年】	3,170m ²	

出典:各館要覧、年報、ホームページ

隣県の県立施設の駐車場規模

県	美術館	図書館	合計	考察
栃木県(既存)	80台	0台	80台	駐車台数は150台~450台程度 (平均で300台程度) 300台×30m ² /台 =9,000m ² 程度
群馬県	170台	140台	310台	
茨城県	約400台 <small>※航空写真でカウント</small>	66台	約466台	
福島県	150台		150台	

出典:各館要覧、年報、ホームページ

- 延床面積は3施設の合計で36,000m²程度(少なくとも29,000m²以上)と考えられる。
- 駐車場面積は9,000m²程度(少なくとも4,500m²以上)と考えられる。



一体的な整備にはまとまった敷地面積が必要になる。
県体育館跡地の敷地面積は33,630m²で、必要な面積を許容できると考えられる。

⇒「文化と知」の創造拠点は、県体育館跡地に整備することとしたい。

「文化と知」の創造拠点の整備地について

他の場所との比較

	県体育館跡地	栃木県教育会館敷地内	栃木会館跡地(※1)
所在地(地図)			
所在地	宇都宮市中戸祭1丁目	宇都宮市駒生1丁目	宇都宮市本町
敷地面積	33,630㎡	20,160㎡(既存建築物あり)	6,150㎡
用途地域	第1種・第2種住居地域	第1種・第2種住居地域	商業地域
容積率(※2)	200%	200%	600%
建ぺい率(※2)	60%	60%	80%

出典:国土地理院地図

※1 別途サウンディング調査実施中

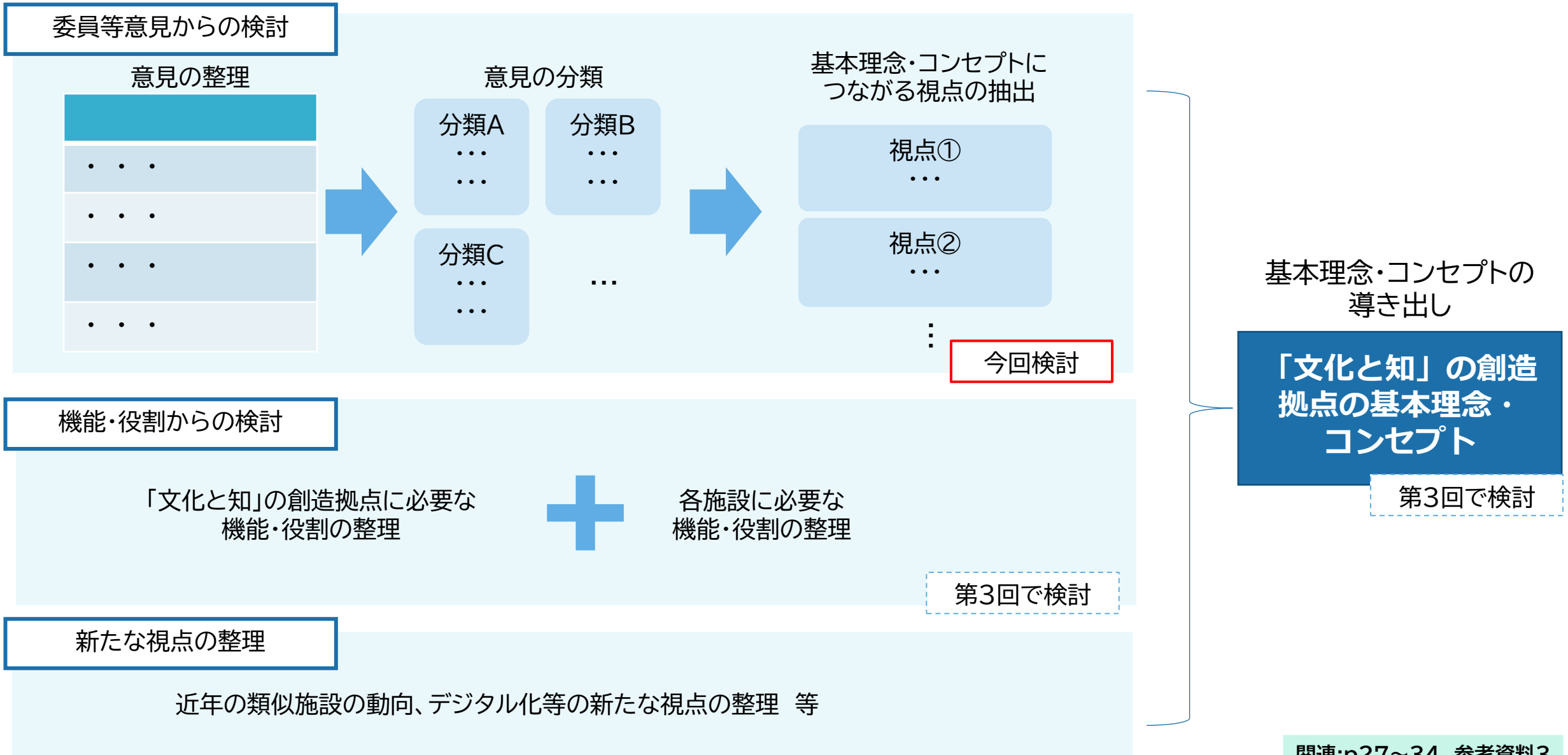
※2 容積率、建ぺい率は都市計画法上の数値

参考：各施設の現況面積等と「文化と知」の創造拠点の想定面積等

	延床面積	敷地面積	駐車場台数
現況面積等(3施設合計)	16,317㎡	17,413㎡	80台
想定面積等	36,000㎡程度	—	300台(9,000㎡)程度

「文化と知」の創造拠点の基本理念の検討について

基本理念・コンセプト検討の流れ



第1回検討委員会における意見の整理①

分類	意見
目指す姿に関するもの	<ul style="list-style-type: none">● 県民に長く愛される施設になってほしい● 県民誰もが利用でき、楽しめる施設になってほしい● 人々の交流から新たな「文化と知」が生まれるような拠点になると良い● 「文化と知」の創造の主体として活躍できる場になると良い
県立施設の特徴に関するもの	<ul style="list-style-type: none">● 県立の施設としての役割を果たし、市町立の施設との差別化が必要
建築に関するもの	<ul style="list-style-type: none">● 栃木県らしさ、各施設の特性等を意識した建築にすることが重要● 多様な作品や利用形態、利用者に対応できる空間が必要
資料の保存・継承に関するもの	<ul style="list-style-type: none">● 資料を適切に保存・研究し、後世に残すための施設や設備が必要● 収蔵庫は、今後の増加も鑑みて拡大することが必要
資料の利活用に関するもの	<ul style="list-style-type: none">● 人材育成等も含め、教育・普及等への資料の利活用ができる体制づくりが重要

第1回検討委員会における意見の整理②

分類	意見
利便性に関するもの	<ul style="list-style-type: none">● 年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが利用しやすい施設としていくのが良い（ユニバーサルデザイン、ノーマライゼーション）● 公共交通や車でのアクセスのしやすさが重要● 十分な広さの駐車場が必要● 場所の分かりやすさ、視認性なども重要
連携に関するもの	<ul style="list-style-type: none">● 拠点を中心に、県内全体の施設とのネットワークを強化することが重要● 教育機関との連携について、更に強化・拡充できると良い● 物販やイベント等への民間の力の活用が重要
デジタルの利活用に関するもの	<ul style="list-style-type: none">● デジタルアーカイブを連携・強化し、横断検索ができると学びが深まる● デジタル技術の活用により、県内どこからでも鑑賞・閲覧ができる機会を提供することが必要● デジタルと実物を融合させた新たな価値の創造ができると良い● どのようなデジタル化をするか、県民ニーズをとらえた検討が必要● デジタル化に併せ、環境整備や利用支援も必要

第1回検討委員会における意見の整理③

分類	意見
集い・憩い・交流に関するもの	<ul style="list-style-type: none">● 「文化と知」を生み出すための集い・憩い・交流の場が必要● イベントや会議等でも利用できるような場所があると良い● レストランやカフェ等を各施設で共有して利用できると良い
県民参加に関するもの	<ul style="list-style-type: none">● また来たいと思えるよう、県民の声を聞きながら進化する施設になると良い● 県民が様々な活動に参加できるようなプログラムが必要● 若手の作家が展示等で利用できるスペースがあると良い
県民の学びや体験に関するもの	<ul style="list-style-type: none">● 芸術や文学、学問と出会うことで、豊かな感性を育む場となってほしい

意見の分類、基本理念・コンセプトにつながる視点の抽出①

目指す姿に関するもの

親しみやすく、誰もが楽しめるような場所を目指す

デジタルの利活用に関するもの

現地を訪れることができない方でも、デジタルを活用し、学びや創造の場に参加できる仕組みが求められている

資料の利活用に関するもの

学校等において、資料を積極的に利活用し、学びにつなげることが期待される

集い・憩い・交流に関するもの

人々が憩える場、交流の場や、イベントの開催など、様々な形で気軽に利用できる場を目指す

利便性に関するもの

ユニバーサルデザイン、県内各地からのアクセス性など、誰もが利用しやすい施設を目指す

県民参加に関するもの

作品展示やボランティア等、様々な形で「文化と知」の創造拠点の活動に参加できる仕組みが求められている

視点① 案

開く

- 誰でも・いつでも・どこからでも、気軽に利用し、活動に参加できる
- 幅広い活動を通し、栃木県ならではの「文化と知」に触れられる
- 県民共有の財産である収集資料を身近に感じられる

意見の分類、基本理念・コンセプトにつながる視点の抽出②

一体的な整備に関するもの

3館が同一の場所に**一体的に整備**されることで、新たな活動や魅力が生まれることが期待される

連携に関するもの

市町の施設や教育機関など、**外部と連携**し、支援することが重要である

目指す姿に関するもの

長く愛される施設を目指す

デジタルの利活用に関するもの

デジタルと実物を融合させた体験や、デジタルアーカイブでの**資料の横断検索**による利便性向上等が期待される

資料の保存・継承に関するもの

収集した資料を適切に保存・研究し、**次世代に継承**していくことが求められている

集い・憩い・交流に関するもの

「文化と知」の創造拠点を訪れる**利用者同士の交流の場**となることが期待される

視点② 案

つなぐ

- 一体的な整備により、各館の連携強化や相互利用の促進が図られる
- 拠点を通じて利用者や地域、団体など様々な主体の連携・交流が図られる
- 「文化と知」を守り、将来に伝える

意見の分類、基本理念・コンセプトにつながる視点の抽出③

目指す姿に関するもの

様々な活動を通じ、新たな「文化と知」が生まれるような拠点を目指す

資料の利活用に関するもの

学校等において、資料を積極的に利活用し、創造・探求活動の一助になることが期待される

連携に関するもの

周辺の教育機関との連携や、学校連携事業等を通じ、「文化と知」に係る教育や生涯学習を支援する

集い・憩い・交流に関するもの

拠点で多くの人々が集い・憩い・交流することで、新たな「文化と知」の創造につながることを期待される

県民参加に関するもの

拠点で作品等の発表機会を提供することを通じ、若手作家等の活動の支援・育成を図る

県民の学びや体験に関するもの

文化・芸術の多様な表現とデジタルでもリアルでも出会うことができ、感性を育む場となる

視点③ 案

生み出す、育む

- 拠点での学びや交流等の活動を通じ、新たな「文化と知」を生み、育んでいく
- 拠点を通して「文化と知」の担い手が活躍する
- 学校連携事業や生涯学習支援など、あらゆる年代の学びを支える

参 考 资 料

県体育館跡地の周辺環境

交通環境

- JR宇都宮駅から約5km(直線距離:約3km)
- JR宇都宮駅からの路線バスは、敷地に面する道路に停車
- JR宇都宮駅からバスで約15分、9時～18時の施設利用が見込まれる時間帯は7～10分あたりに1本運行
- 東北自動車道宇都宮ICから約7.5km
- 整備予定の東北自動車道大谷スマートIC(仮称)から約4.5km

前面道路

- 東側は国道119号線(通称:日光街道、片側2車線、幅員20m)に接道
- 北側は市道22号線、敷地西側は市道1799号線に接道

自然災害

- 宇都宮市ゆれやすさマップでは震度6強(直下型地震)の揺れが発生すると推測
- 東日本大震災時は宇都宮市で震度6強を観測
- ハザードマップ(洪水、土砂災害、ため池、内水)上の想定区域外

周辺環境

- 周辺は、主に住宅街で、前面道路沿いは店舗等あり
- 1.5km圏内には小・中・高等学校や特別支援学校等の教育機関が多数(13施設)
- 敷地北側には国立病院機構栃木医療センターが隣接

1.5km圏内の周辺の教育機関

小学校	宇都宮大学共同教育学部附属小学校 市立戸祭小学校 作新学院小学部
中学校	宇都宮大学共同教育学部附属中学校 市立星が丘中学校 市立陽西中学校 作新学院中等部
高等学校	宇都宮文星女子高等学校 作新学院高等学校 県立宇都宮中央高等学校
その他	宇都宮大学共同教育学部附属特別支援学校 県立聾学校 栃木医療センター附属看護学校
合計	13校

サウンディング型市場調査の概要

項目	内容
目的	県庁前の県有地の今後の利活用方針を検討するに当たり、民間活力の導入による利活用の可能性や手法、課題等を把握することを目的として、民間事業者から幅広く意見・提案等を募るための対話型(サウンディング型)の調査を実施する。
対象地	栃木会館跡地(6,150㎡)及び宇都宮中央郵便局跡地(1,600㎡)
実施期間	令和5(2023)年10月30日(月)～11月2日(木) ※結果の公表は12月中旬を予定
用途の考え方	県都の顔にふさわしい、賑わいの創出等につながるもの
対象者	対象地の利活用に関心のある法人又は法人のグループ
項目	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業コンセプト(コンセプトや想定される主な利用者等) ● 民間施設の導入内容(施設の機能や規模、民間施設の導入に当たっての条件や課題等) ● 土地の利活用内容(施設計画のイメージ、大まかなゾーニング、利用者動線の考え方) ● 事業スキーム(事業手法、事業期間、スキーム図) ● 事業実施に当たり県に求める事項(土地に関する条件等)

一体的整備を行っている先事例におけるコンセプト（竣工年順）

福井県立図書館・福井県文書館・福井県ふるさと文学館			
施設全体のコンセプト	施設を構成する機能	機能ごとのコンセプト	
※施設全体の コンセプト策定なし	福井県立図書館	1 情報の提供	(1)資料収集 (2)レファレンスの充実 (3)資料デジタル化の推進
		2 他機関との連携	(1)図書館ネットワークの強化、拡大 (2)専門機関との連携企画の実施 (3)図書館司書、ボランティア等の育成
		3 生涯学習活動の支援	(1)文書館、ふるさと文学館との連携 (2)子どもの読書活動の推進 (3)県民の生涯学習支援
	福井県文書館	(1)文書等の収集、整理および保存 (2)文書等の閲覧の実施 (3)文書等に関する調査および研究 (4)文書等に関する知識の普及および啓発 (5)その他、文書館の設置の目的にふさわしい業務	
	福井県ふるさと文学館	1 資料の収集・整理、調査・研究	(1)資料の調査・収集と整理 (2)情報提供と活用
		2 文学の魅力の発信	(1)全国文学館等と連携した展示 (2)多彩な資料を用いた展示
		3 文学活動や交流の支援	(1)図書館、文書館との三館連携 (2)講演会、文学ゼミ (3)情報発信

一体的整備を行っている先事例におけるコンセプトについて

一体的整備を行っている先事例におけるコンセプト（竣工年順）

武蔵野市立ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス		
施設全体のコンセプト	施設を構成する機能	機能ごとのコンセプト
「アクションの連鎖」が 起こる施設をめざして	図書館機能	【基本理念】ひととまちを「知」で支える
		【基本方針】1 図書館の力を高める (1)すべての人が「読む」楽しみを実感できる図書館 (2)すべての人が「知る」楽しみを実感できる図書館 (3)「デジタルの力」を取り入れ、活かす図書館
		【基本方針】2 図書館の力を地域に活かす (1)地域住民の課題解決を支援する図書館 (2)人々の交流と文化創造を支援する図書館
	生涯学習機能	(1)「学びをえらぶ・はじめる」の支援 (2)「学びをひろげる・つなげる」の支援 (3)「学びをおくる」の支援 (4)「学びの土台」の整備
	青少年活動	(1)青少年育成施設の拡充 (2)自然体験事業の拡充 (3)青少年育成環境の整備 (4)青少年の国際交流教育
市民活動	(1)コミュニティの活性化 (2)協働推進体制の整備	

一体的整備を行っている先行事例におけるコンセプトについて

一体的整備を行っている先行事例におけるコンセプト（竣工年順）

三重県総合博物館		
施設全体のコンセプト	施設を構成する機能	機能ごとのコンセプト
【テーマ】 三重が持つ「多様性の力」 【活動理念】 「ともに考え、活動し、成長する博物館」	博物館	(1)三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ活かす (2)学びと交流を通じて人づくりに貢献する (3)地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献する
	文書館	【コンセプト策定なし】

一体的整備を行っている先行事例におけるコンセプトについて

一体的整備を行っている先行事例におけるコンセプト（竣工年順）

太田市美術館・図書館		機能ごとのコンセプト	
施設全体のコンセプト	施設を構成する機能	機能ごとのコンセプト	
創造的太田人 まちに創造性をもたらす、 知と感性のプラットフォーム	太田市美術館	【過去】 1 太田市に蓄積されてきた創造の遺伝子の 収集と調査研究	(1)太田市ゆかりの美術工芸作品の収集 (2)上記収集品の調査研究と常設展の構成
		【現在】 2 世界の最先端の感性やクリエイティビティ に触れる機会の提供	(1)本と美術に関連する企画展の開催 (2)滞在制作による個展・グループ展の開催 (3)企画展と連動したワークショップやトークショー等の 開催
		【未来】 3 次代を担う人材、プロジェクトの育成	(1)地元企業コラボレーションの成果を発表する展覧会 (2)地元企業コラボレーション (3)アートブックフェアの開催 (4)ライトアートフェスティバルの開催
	太田市図書館	【過去】 1 太田市に蓄積されてきた創造の遺伝子の 収集と調査研究	(1)郷土資料および参考図書(辞書辞典類)の収集 (2)太田の産業遺産関連の希少資料の収集と調査研究
		【現在】 2 世界の最先端の感性やクリエイティビティ に触れる機会の提供	(1)アートブック・芸術関連図書の収集 (2)創造性に関連する自然科学、社会科学、人文科学書籍 の収集 (3)企画展と連動したワークショップやトークショー等の 開催
		【未来】 3 次代を担う人材、プロジェクトの育成	(1)子どもたちの創造性を育む絵本・児童書などの収集 (2)まちじゅう図書館の展開 (3)地元企業コラボレーション (4)アートブックフェアの開催 (5)ライトアートフェスティバルの開催

一体的整備を行っている先行事例におけるコンセプトについて

一体的整備を行っている先行事例におけるコンセプト（竣工年順）

須賀川市民交流センターtette		
施設全体のコンセプト	施設を構成する機能	機能ごとのコンセプト
人を結び、まちをつなぎ、 情報を発信する場の創造	博物館	【コンセプト策定なし】
	図書館	【コンセプト策定なし】 * 1 全館配架 2 テーマ配架 3 わくわくする配架 4 各機能との融合 5 図書館資料のディスプレイ 6 更新性に配慮したサイン計画 7 居心地の良い自由な空間
	生涯学習機能	【コンセプト策定なし】

*:コンセプトとしての記載はなし(須賀川市のプレゼンテーション内の文章から抜粋)

一体的整備を行っている先行事例におけるコンセプトについて

一体的整備を行っている先行事例におけるコンセプト（竣工年順）

角川武蔵野ミュージアム		
施設全体のコンセプト	施設を構成する機能	機能ごとのコンセプト
【ところざわサクラタウン】 COOL JAPAN FOREST構想 みどり・文化・産業が調和 したまち	美術館	【コンセプト策定なし】
	博物館	【コンセプト策定なし】
	図書館	じっとしてられない図書館* 本棚劇場では定期的に「本と遊び、本と交わる」をコンセプトにしたプロジェクションマッピングを実施
【角川武蔵野ミュージアム】 知の殿堂*		

*:コンセプトとしての記載はなし(記事やウェブサイト内の文章から抜粋)

一体的整備を行っている先事例におけるコンセプトについて

一体的整備を行っている先事例におけるコンセプト（竣工年順）

八王子駅南口集いの拠点【計画段階】		
施設全体のコンセプト	施設を構成する機能	機能ごとのコンセプト
学び、交流、防災の3つの機能を備えた「サードプレイス」	郷土資料館機能	～地域への愛着や誇りを感じるミュージアム～ 歴史・文化等の豊富な地域資源を活用し、地域を見て・触れて・感じてもらうミュージアムを目指し、八王子に対する愛着や誇りを感じ、育むキッカケの場としていく
	図書館機能	～また来たくなる みんなのライブラリ～ 子どもから大人までが、緑を感じながら気軽に読書に親しむとともに、様々な学びをきっかけとして、人と人の交流や新たな価値が生まれていく
	公園機能	～市街地のなかの花と緑が つながりと魅力をつくりだす まちのシンボル～ 市街地の中の貴重な緑として地域の魅力を高め、イベントやレクリエーションの場として多世代のつながりを生み出すことで、この公園をまちのシンボルとしていく

一体的整備を行っている先行事例におけるコンセプトについて

一体的整備を行っている先行事例におけるコンセプト（竣工年順）

練馬区立美術館・貫井図書館【計画段階】			
施設全体のコンセプト	施設を構成する機能	機能ごとのコンセプト	
1 まちと一体となった美術館 2 本物のアートに出会える美術館 3 併設の図書館と融合する美術館	練馬区立美術館	1 まちと一体となった美術館	(1) 駅や商店街等と相互連携した取組を行い、地域のまちづくりにつなげる (2) 美術館と美術の森緑地を一体化し、誰もがアートに親しみながら、憩い、集い、つながるパブリックスペースを創る (3) アーティスト・イン・レジデンスを展開する
		2 本物のアートに出会える美術館	(1) 展示室を拡張し、より質の高い企画展を開催する (2) 近現代のアートを中心とした収蔵コレクションによる、新たな魅力を発信する (3) 重要文化財などが展示できるようにし、展覧会の魅力を高める (4) 映像作品や現代アートなど、多様な作品を展示する (5) 誰もが気軽に鑑賞できる環境をつくる
		3 併設の図書館と融合する美術館	(1) 図書館と機能的融合を図り、さらに広がりを持った情報を発信する (2) 図書館と空間的融合を図り、相互に楽しめる機会を創出する
	貫井図書館	1 世界の知と出会い、学びを豊かにする	(1) 知的探究心を深める情報の充実 (2) 多様な学びの機会の提供 (3) 知識と人を繋げるアウトリーチの強化
		2 練馬の文化を継承・発信する	(1) 「地域ならではの」の継承・発信 (2) 「練馬の文化」の魅力の発信
		3 知が交わり、創造を生み出す	(1) 人と人、人と地域のつながりの創出 (2) 多様なニーズに応える空間の創出
		4 情報へのアクセスを支援する	(1) デジタルを活用したサービスの提供 (2) デジタル利活用の支援 (3) 情報リテラシーの普及

分類	意見（要約）
<p>一体的整備に関するもの</p>	<p>物理的な館として空間・場を共有し、シームレスな活用を可能にする、他県に類を見ない大変素晴らしい構想</p>
	<p>MLA連携は主にデジタルを使った連携だが、3館の機能を物理的空間として一体的に検討を進める点で素晴らしい構想となることが期待できる</p>
	<p>美術作品を拠点内の図書館で調べられることは深い学びにつながる。館のつながりが分かりやすいシステムを作ってほしい</p>
	<p>3館それぞれが新しくなることで魅力を増すため、3館がコラボレーションしてどのようにシナジーが生まれるか関心がある</p>
	<p>3館による企画展、ミニギャラリー、イベントなど、新たな可能性を持った施設になることに期待</p>
	<p>図書館に来館する学生が美術館に行く、あるいは美術館に関するSNS投稿がさらなる来館を呼ぶ可能性があるため、学生が求める機能を充実してほしい</p>
	<p>各館の持つ役割・機能を最大限生かせる固有の施設・設備を設け、緩やかに連結させる形が望ましい（ホール、燻蒸施設、デジタルスタジオ、3館職員情報共有スペース）</p>
	<p>各施設がゆるやかにつながるような構造を作り、そこに県民が憩うことのできる開放的な空間を創出することが求められる</p>
	<p>設備の共有化によってつながりのある空間を演出できると良い（コンシェルジュ、見学ルート、休息所、ラーニングコモンズ、学習スペースの共有）</p>
	<p>共有スペースをどのように作っていくかが学びの楽しさにつながる</p>
	<p>交流の場・広場やバックヤードを共有することにより、相乗効果が期待される</p>
	<p>各施設の機能が十全に果たせるような充実した設備と広さを確保する必要がある（現在の3～4倍）</p>
	<p>インフォメーションがあり、来館時に目的の場所に導く機能があれば使いやすい</p>

分類	意見（要約）
整備地に関するもの	中心地にも近く、広大な土地があり、公共交通がしっかりしているという理想が実現する良い場所だと思う
	土地が広いので、低層で規模の大きい施設が整備でき、望ましい
	日光街道沿いでインターからも近く、県内各地から集える場所で非常に良い
	自家用車であれば県南・県北からも集まりやすいが、公共交通機関の利便性も考える必要がある
目指す姿に関するもの	県民に長く愛されるような、一体化した施設ができると良い
	50年同じ場所で長く愛される施設になってほしい
	誰もが利用できる、大人も楽しめる自由な空間になってほしい
	地域や住民、県民にとって役に立ち、楽しめる施設になってほしい
	県民等しく誰でも、わくわくしながら何かを体験できるような魅力ある空間を実現してほしい
	多くの方に利用していただき、本当の意味で美術館を活用していくことが求められている
	子どもたちの学習に加え、大人が楽しめる施設が本質
	知と芸術の宇宙のような、出会いの場所のイメージを持っている
	人がいて、交流して、新たな文化や芸術が生まれてくるような拠点になると良い
	「文化と知」を「創造する主体」として活躍できる場になることを期待
県立施設の特徴に関するもの	県立館の役割をしっかりと果たし、市町の美術館・図書館との差別化を図る必要がある
	市町立図書館との差別化を図る（専門資料・郷土情報・一般資料エリアの差別化、勉強スペース、若い世代が自然に集まる書架、児童書の収集）
	静かな読書スペースは確保しつつ、楽しい図書館を目指したら良いと思っていたが、市町立と県立でのすみ分けも重要
	県内唯一の県立図書館であることを念頭に、マニアックな専門書を所蔵してほしい

分類	意見（要約）
建物（建築）に関するもの	100年、200年の単位で親しまれる、栃木県ならではの、将来的に文化財となりうる、建物の価値を残す計画にしてほしい
	その施設の目的に合った独自性のある建築を作ることが重要
	美術施設は栃木県に存在する唯一無二の空間と形を持った館が好ましい
	立派すぎると敷居が高いので、誰もが楽しく行ってみたいと思う施設を作りたい
	気軽な動機でも利用してもらえよう、建物の外観イメージも極めて重要
	各施設の建設設計をコンペで別々の建築家に依頼することも検討すべき
建物（諸室）に関するもの	多様な表現に対応できる空間を実現してほしい
	トイレ数などのニーズに対応し、バリアフリー化した建物としてほしい
	駐車場の立体化や収蔵庫の確保など総体的に考え、各施設で残す機能を選別してほしい
	人の話し声や賑やかさを許容するか、静音性の高い図書館とするか、方向性について意思決定する必要がある
資料の保存・継承に関するもの	文化的な作品・史料を保存し、後世に残すための施設・スペースが必要
	収蔵庫については3館すべて同じ問題を抱えており、今後の収蔵品の増加を考え、土地を生かして収蔵スペースを大幅に拡大する必要がある
	どの施設も現在の3～4倍の収蔵スペースを確保すべき
	収蔵庫は大きく確保すべき
	収蔵庫確保のため外部倉庫を借用することは、身近に作品がなく不便、かつ移動の都度コストがかかってしまう
	保存対象ごとに異なる温湿度管理が求められる資料群を残していく際、十分な収蔵スペースの確保と同時に適切な環境下での収蔵も重要
	各職員の意見を踏まえ、価値の「蓄積」のために作品や資料を保存する施設やスペースが必要

分類	意見（要約）
資料の保存・継承に関するもの	学芸員が所蔵品を研究する研究機能の確保も重要
資料の利活用に関するもの	<p>収蔵スペースをしっかりと確保し、所蔵品を活用しやすくすることが重要</p> <p>教育・普及も含めた収蔵品の利活用が可能な体制づくりが今回の基本構想の中で重要</p> <p>専門的な知見を備え経験を積んだ人材の育成・確保、及び設備の充実が必要不可欠</p>
利便性に関するもの	<p>どんな方でも使える施設にしていきたい</p> <p>誰にも利用しやすい開かれた公共施設の概念が重要</p> <p>障害のある人ができるだけ気軽に、負担なく行ける施設にしていきたい</p> <p>ノーマライゼーションに立脚した、誰もがそこで集って憩える交流の場所になることを期待</p> <p>バリアフリーを徹底し、障害のある人や高齢者も気軽に行けるような施設としてもらえるのが良い</p> <p>バリアフリーを完璧にする（設備、交通手段、アウトリーチサービス、デジタル発信）</p> <p>個人のバックボーンの格差をなくし、ハード面だけでなく意識のバリアフリーを目指す</p> <p>読書バリアフリーに関する積極的な支援が必要（特に障害者支援、県福祉プラザとの連携・協力）</p> <p>県施設として、公共交通や車でのアクセスがしやすいことが重要</p> <p>公共交通との結節は重要</p> <p>幹線道路からのアクセスしやすさが重要</p> <p>道路からの視認性が重要</p> <p>現在の県立図書館は地理的に不便である</p> <p>現県立美術館は場所がどこか分かりづらく、駐車場が狭い</p>

分類	意見（要約）
館相互の連携に関するもの	県立美術館を拠点として、県内全体で鑑賞機会を増やすネットワークを作り、強められると良い
	専門的な資料や書籍を複数館が連携して見せる際、デメリットも出てくるのではないか
教育機関との連携に関するもの	一体的整備の中で、学校連携についても引き続き強化・拡充すると良い
	近くにある複数の豊富な内容の教育機関と密に連携して豊かな環境を作ると望んでいる
	DX化、学校現場との連携が重要
民間との連携に関するもの	カフェやレストラン、物販を含め、民間の力をどう活用するか仕組みを作ることが大事である
	民間による事業参加は不可欠（施設運営スポンサー、出店、事業の創出、イベント開催）
デジタルの利活用に関するもの （体験）	GIGAスクール構想を通して子どもたちがタブレットに習熟していることから、デジタルアーカイブを通じたオンライン鑑賞を可能にしてほしい
	デジタルアーカイブの組み合わせによる横断検索が実現すれば、学びの場が豊かになる
	デジタルを活用し、県内どこからでも同じようなリアルタイムの鑑賞・閲覧ができる場づくりを実現してほしい
	福祉の観点から、どのような方にもアートに触れる機会の実現のために複製展示による鑑賞機会の提供は意義深い
	行きたくても行けない人のためのデジタル活用はありがたく、実物を見たいと思った人は実際に足を運ぶきっかけになると思う
	移動図書館など実際の物流を増やすよりも、デジタルの力を借りて様々な自治体に居住する県民にサービスを提供することを意識してほしい
	デジタル・実物を融合させて学ぶことで、新しい価値創造が実現する
	紙媒体と電子媒体を組み合わせたハイブリッド型な図書館となるような構想にしてほしい
	図書館はデジタル書籍の併用など未来志向の空間が編み出せるようにしてほしい
	原本保存と電子データ活用を両立できると良い
デジタルの利活用に関するもの （留意点）	何をどのようにデジタル対応するかがポイントであり、どのようなデジタル化をすれば心地よく活用してもらえるか県民の声を聞いて検討してほしい

分類	意見（要約）
デジタルの利活用に関するもの （留意点）	肉筆の価値を見失いがちになる危険性もあり、デジタル技術の使い方も考えていければ良い
	デジタルを活用し制作を行う時代でも、じかに物に触れたり作っていく行為の重要性は代替されないのではないかと
	最先端技術を活用しつつ、環境整備や利用支援を行う観点が必要
	デジタルアーカイブ化の実現に向け相応のコスト・人的資源・体制が求められるため県全体で考えるべき
	電子公文書・デジタル資料の収集保存に関連し、県全体の文書のシームレスな管理方法は、検討委員会に加えて所管課とともに検討すべき
	デジタル分野の事業や広報を一元的に扱う部署が必要
集い・憩い・交流に関するもの	『『文化と知』の創造』のためには集い、憩う、交流できる場所が必要（対面かつ、飲食しながら交流できると良い）
	新たな文化や芸術が生まれるような交流スペースが必要
	新しいゾーンが、県民の憩いの場となり、多くの人が集う場となると良い
	イベントやコンサート実施のためホールがあると良い（集会・研修会・儀式にも使用）
	全国的な会議・コンベンションで使用できる会議室や交流場所、気軽に集える諸室も考えると良い
	講座やコンサートを開催できるホールなどが施設の中にあって、障害の有無にかかわらず皆がそういった場を楽しめると良い
	レストランやカフェ、イベントスペース、中小規模のホールなどを、各施設が共有して利用できると良い
	雨天時・猛暑時に昼食などを椅子に座って食べられる場所があると良い

分類	意見（要約）
県民参加に関するもの	子どもたちが「また来たい」とリピーターになるよう、子どもたちの声を聞きながら進化する施設になってほしい
	県民の具体的な事業参加の仕組みを用意（ボランティア、各施設のファン連携、学習グループ、サークル育成、学習機会）
	地域・県民を巻き込んだワークショップの開催を行ってほしい
	無料で楽しめるミニギャラリーがあると県内で活動している若い芸術家の作品紹介ができる
	県内芸術家の成長のため、一般展示室の新設は考慮しても良いのでは
	若者がチャレンジできるルーキーズエリアなど、文化や芸術に対するハードルを下げた取組が重要
県民の学びや体験に関するもの	若い感性・思考力と文学やアート、学問との出会いにはかけがえのない意味があり、大きな可能性につながる
	本物と、目的を持った、あるいは思いがけない出会いを作る場であり、多くの若い人が豊かな内面世界を培ってほしい
その他	周辺公共施設やまちづくりとの関係の検討も必要
	適切な収蔵環境の確保には相応のコストもかかるため、一体整備の中でコスト面についても議論する必要がある
	開館までの経緯についても県民にしっかり明示できる議論の場になってほしい

県民ワークショップにおける意見整理表

別紙2

※類似意見は集約

分類	意見（要約）
一体的整備に関するもの	一体整備により、展示品の情報等が調べられる場所となしてほしい
	各館での連携を実現してほしい
	美術館が展示をしているものに関わりのある本を読みたい
	美術と歴史を関連付けた展示や体験に期待
整備地に関するもの	現施設は、交通の便が悪く、遠くて行きづらいので、公共交通機関で利用できるようにしてほしい
	周りに学校が多いので、利用しやすくなる学生は多いと思う
	市街地との回遊性を考慮し、施設の集客力を地域に波及させてほしい
	宇都宮市の都市計画との整合性を図るため、市と話し合うべき
	観光客の利便性を考えると、LRTの沿線に整備するのが良いのではないか
	県庁前の芝生広場（栃木会館跡地）に整備してはどうか
	コンセーレ（教育会館）の敷地内に整備してどうか
目指す姿に関するもの	目的がなくふらっと訪れられる環境を実現し、間口を広げてほしい
	施設の中に閉じられた機能だけでなく、開かれた機能がほしい
	現施設には一般向けのイメージがないものもある（文書館）
	来館する初心者向けの配慮もほしい

分類	意見（要約）
県立施設の特徴に関するもの	学校や地域の施設との差別化が必要
建物（建築）に関するもの	<p>現在の施設には入館時の雰囲気、アプローチ、見た目が不足している</p> <p>自然との融合が感じられ、リラックスできる空間がほしい</p> <p>外庭、出入口付近など、魅力的な無料空間を検討してほしい</p> <p>全国唯一となるような、建築・機能のオリジナリティがほしい</p> <p>高層化を検討するのはどうか</p> <p>観光ガイドに必ず紹介されるような目玉となる展示・建築となってほしい</p> <p>写真に映えるスポットとなってほしい</p>
建物（諸室）に関するもの	<p>広い学習スペースがほしい</p> <p>3館でフレキシブルに使える空間がほしい</p> <p>魅力的で大きなミュージアムショップがほしい</p> <p>託児スペースがあるとよい</p>
資料の保存・継承に関するもの	現施設にはシンボルになる作品がない
資料の利活用に関するもの	<p>作品に関する館内外でのツアー、解説があるとよい</p> <p>現施設と同じように、本物の資料に目で触れ（美術館・図書館・文書館）、手で触れたい（図書館・文書館）</p> <p>駅など、多くの人がいる場所での展示を実現するのはどうか</p>
利便性に関するもの	<p>海外に向けたインバウンドの取組があるとよい</p> <p>現施設は、とくに子どもにとって身近さがなく、敷居が高く入りづらいイメージがある</p> <p>現施設は雰囲気が暗いため、拠点では明るい色使い、明るい雰囲気がほしい</p> <p>現施設はエレベーターが不足しているため、拠点ではスロープ、昇降機などを整備し、誰でも利用しやすい施設にしてほしい</p> <p>ユニバーサルデザインを導入してほしい</p>

分類	意見（要約）
利便性に関するもの	現図書館は駐輪場が少ない
	現施設は開館時間が短く、行ける時間が限られてしまう
	現施設は道路沿いに表示がなく不便
教育機関との連携に関するもの	校外学習や授業での活用を実現してほしい
デジタルの利活用に関するもの （体験）	デジタル・AIを生かした展示（例：プロジェクションマッピング など）を実現してほしい
	古文書が読めるアプリなどを活用して歴史史料に親しんでみたい
デジタルの利活用に関するもの（留意点）	デジタルにない実体験もほしい
集い・憩い・交流に関するもの	美術館に泊まったり、お酒が飲めるなど、興味深い・珍しい企画を実現してほしい
	カフェ・レストランの充実を図ってほしい（例：おしゃれで広いカフェ・レストラン、借りた本の持ち込みが可能、栃木県のもものが食べられる、美術をモチーフにした料理が提供される、横丁形式の飲食形態）
	十分な休憩スペースがほしい
	鑑賞・読書・史料閲覧などの合間に会話が許容されるような交流スペースがほしい
	一緒に来館した友達同士で教え合えるようなグループ学習スペースがあるとよい
	ベンチ、公園、子供が遊べる場所など、来館したときに遊べるスペースがほしい
	子どものための読み聞かせスペースがあるとよい
	音楽をかけることが許容されるスペースがあるとよい
	一日滞在できる機能があるとよい

分類	意見（要約）
県民参加に関するもの	健全者以外への芸術体験の場を実現してほしい
	魅力的なイベントやワークショップなど、体験できるもの（県民参加型、専門家・芸術家を招いたワークショップ、展示に関する技法）があるとよい
	県民が作品を発表できる空間がほしい
	子どもの絵を飾ったり、来館した人が作品を作るなど、作品を飾れるようにしてほしい
	既存の美術館の友の会の特典を改善してほしい
	SNSなど口コミが広がっていくと、たくさんの人が集まりそう
県民の学びや体験に関するもの	動きのあるイベントを開催してほしい
	イベントスペース（例：常設のイベントステージ、屋外でのイベントステージ）で、様々なイベントを開催してほしい（例：地域のオーケストラ・合唱団などの発表、フェスイベントの開催）
	民芸や大道芸、花火など、様々なアートに関するイベントがあるとよい
	県内への所蔵作品の巡回や、県内各所での展覧会巡回を開催してほしい
	目に入るもの以外のことを知る機会を実現してほしい
その他	予算が足りない